



しなやかに成長する学校をめざして

新しい学年が始まりました。7日の入学式にはピカピカの1年生74名を迎え、児童数は520人、学級数は全学年が3学級となりました。昨年4月の校長室だよりでは、「500人の大台を超えました」と書きましたが、児童数の増加はまだまだ続くようです。今後も増加が見込まれる中、秋からは校舎建築の工事が始まるので、狭隘化への対策も進めていかなければなりません。

そして、昨日の始業式で久しぶりに会った子どもたちは、たった2週間ほど顔を見ていないだけでずいぶん成長したように思えました。それは、去年とは違う色のフェルトに縫い付けられた名札のせいだけでなく、みんなの表情に学年が一つ上がったという気持ちが表れているからではないでしょうか。子どもたちには今の気持ちを大切に、この一年間を頑張ってもらいたいと思います。とはいえ、すべての子がウキウキワクワクして新学年を迎えたわけではないでしょう。新しい担任や友だちとの出会いという光の影には、一緒になれなかった悲しみを抱える子がいるかもしれません。また、これまでと違った環境に、漠然とした不安をもっている子もいるでしょう。しかし、担任や担当の先生方は、そうした子たちにも、一年経ったとき「このクラスでよかった」「この先生と出会ってよかった」と思えるように願いながら関わってくれるはずです。ですから、どうか勇気の一步を踏み出して、新しい世界をのぞいてみてほしいです。

さて、そんなこんなで始まる一年間を、私なりにどんな天王寺小学校にしていこうかと今年度の学校運営の重点を春休み中、ずっと考えてきました。そして、たどりついた答えがこれです。

「伝統を礎に、しなやかに成長する学校をつくる」

～自分で考え、動き、支え合う子どもの育成～

ちょっとカッコいいスローガンのようになってしまいました。

本校は今年で152周年を迎える歴史と伝統のある学校です。歴史というものは時間さえ経てばおのずと残るものですが、伝統は、そこにいる人たちが意思をもって作り上げてこそできるものだと思います。先日、長年にわたって本校を知る方が、「天王寺小学校は、良い意味で昔から変わっていませんね。」とおっしゃいました。それは、子どもたちの優しいところであったり、教職員の丁寧なかかわりであったりと、これまで本校の教職員が保護者や地域の皆さんとともに作ってきた部分ではないかと思っています。実際、それは私自身もこの4年間で強く感じてきたところです。そして、そうした本校の良さを守りつつ、一方では、今の時代に対応した学校にしていかなければならないとも思っています。



それでは、天王寺小学校は、どう変わっていけばよいのでしょうか。

先月^{おこな}行った卒業式の式辞で、「疾風^{しっふう}に勁草^{けいそう}を知る」という話をしました。「疾風」とは、速く激しく吹く風のことを言います。そして、「勁草」とは、風雪に耐える強い草のことです。「疾風に勁草を知る」とは、強い風が吹いたときに初めて、それに負けない強い草を見分けることができることから、人は、困難や試練に直面したときに、初めてその人の意思の強さや節操^{けんご}の堅固さ、人間としての値打ちがわかるのだという意味があります。ただし、ここで言う強さとは、大木のように風を受けてびくともしない強さではありません。風が吹いた時にはたなびいても、決して折れることなくまた立ち上がる「しなやかな強さ」を言います。これから先の予測困難と言われる社会を生きていく子どもたちには、ぜひこの「しなやかな強さ」をもってほしいと思っています。そして天王寺小学校も、子どもたちとともに「しなやかに」成長していく学校であってほしいと願っています。



では、そうした学校にするために、子どもたちはどのように学ばよいのでしょうか。昔、先輩の先生と学習意欲について話をしていた時のことです。子どもの学ぶ意欲をスポンジに例えて考えたことがありました。乾いたスポンジは、どんどん水を吸います。しかし、スポンジが水で満たされてしまうと、いくら水を与えてもそれ以上吸うことはありません。つまり、どれだけ素晴らしい学びが目の前にあっても、子ども自身が乾いていなければ、自ら学ぶという流れにはつながらないのではないだろうかと考えたのです。ですから、子どもたちをどれだけ乾かすことができるかが、私たち教師の腕の見せ所とも言えます。そして、そこに子どもたちにスツと染み込むような学びを用意することで、子どもたちは主体的に学び始めるのです。時にはあふれた水をすくい取ってやり、また新たな水を用意することも必要でしょう。また、その時に仲間や友だちがいることで、スポンジの乾き具合もきっと変わるでしょう。さらに、助け合うだけでなく、時には競い合うことで、子どもたちの学びの器そのものが大きくなっていく…。そんな姿を想像して、目指す子どもたちを考えました。

こうしてみると、今年の学校運営の重点も、言葉は違えどもこれまでとあまり違ってないのではないかと思うようになりました。やはり天王寺小学校らしさはこれからも変わらないのかもしれないし、それこそが天王寺小学校の伝統なのかもしれません。

それでは、みなさま、本年度もご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

先月の校長室だよりですが、これまでのお礼を書くにあたって、ちょっと力が入りすぎて最後のご挨拶風になってしまったことで、ざわめきが起きたとあちらこちらでお聞きしました。申し訳ございませんでした。そのまま転勤となればそれはそれでよかったのですが、本年度も引き続き、校長室だよりで、学校の今をお伝えしていくことにしました。(これまで発行してきた校長室だよりは、学校ホームページの配布文書欄から過去年度を選択してお読みいただけます。)今年度も書くにあたって、できるだけ説教くさくならないように心掛けてまいります。何分にも昭和の生まれ育ちなので、「不適切にもほどがある」表現がありましたらお許しください。ところで、「何でこんなに字が小さいのか」ですって?紙面の都合もありますが、おわびの気持ちと恥ずかしさの表れです。ああ、穴があいたら入りたい…。

